

会 報

東北大学教育学部同窓会仙台支部

国立大学法人東北大学の発足

大学院教育学研究科長・教育学部長

菊池 武 剋

さまざまな論議と準備を経て、平成16年4月1日、国立大学法人東北大学が発足いたしました。これからは法人の長である総長と理事を中心として大学の運営が進められることとなります。経営については半数を学外者が占める経営協議会、教育については教育研究評議会にはかるということになりました。予算についてもいちいち文部省に願い出るのではなく、一括して年度の経費が運営費交付金として交付され、大学はこれを自己責任において使うというやり方になりました。社会との接点と社会に対する説明責任が大きくなりました。教職員もこれまでの公務員ではなく、法人の職員ですので、労働協約等の締結が必要になります。このように制度がなにもかもこれまでとは違ってしまいました。戸惑うことばかりです。

大学全体と同時に学部や大学院研究科も6年間の中期目標・中期計画に基づいて、その実行が求められ、5年目に評価され、それにしたがって次期の運営費交付金が決定されるということです。きちんとした執行部体制を整備することが求められます。しかし、そうはいつでもこれまでの国立大学の在り方を急に改めることが難しいのも事実です。法人化に伴う要請とこれまでの国立大学の運営とをいかにすれぱうまく調和させることができるのか。研究科長・学部長としては悩み多い毎日です。

しかし、だからといって日々の教育・研究活動ががらりと様変わりしてしまったわけではありません。これまで通りの学事日程が進行しておりま

す。これが重要なのだと思います。大学として必要なことは法人化されようがされまいが変わらないものです。変えなければならぬことと、変えてはならないことをしっかり見据えていくことが重要なのだと思います。

第 25 回

同窓会仙台支部総会のご案内

初秋の候、同窓生各位にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、下記により仙台支部総会を開催いたします。今年度もまた、大学当局のご好意で文科系総合研究棟の会議室をお借りすることができました。

ご多用の折とは存じますが、皆様お誘い合わせの上、是非ご出席くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 日 時 平成16年10月30日(土)
午後1時～5時15分
2. 会 場 東北大学文科系総合研究棟一号館
会議室(11階)
(〒980-8576 仙台市青葉区川内)
3. 内 容
(1)仙台支部総会 13:00～13:30(12:30受付開始)
(2)講 演 13:45～14:45
講 師 東北大学副学長
菅井 邦明 教授(37年入学)
演 題「日本の教育と
東北大学の未来」
(3)懇 親 会 15:00～17:00
4. 会 費 5,000円当日受付にて申し受けます。
5. 申込み 同封のハガキでお願いします。
6. 締切日 10月16日(土)取消は10月23日(土)迄に

*総会当日直前にキャンセルの場合は、会費のご負担をお願い致します。

楽しい出会いを求めて

熊谷 捷子 (33年入学)

「おばあちゃん、行ってらっしゃい。今日はどこへ行くの？」

孫達の声の背に、私は重いカメラバッグと三脚を持って、元気良く趣味の世界へ出かけます。退職を機会に色々なことに首をつっこんでみましたが、今でも続いている趣味のひとつに写真があります。写真をするようになって感動することが多くなりました。四季を通して、一日を通して、変化していく自然界の様子をはじめその他諸々にも目を向けるようになりました。

5月初旬山形県飯豊町へ行った時のことです。朝4時半頃外へ出てみると、雪を被った飯豊連峰の上に白い残月が出ているではありませんか。感動でした。夢中になってシャッターを押し続けました。太陽が昇ると共に空、残雪、山、林、谷川の色が微妙に変化していきます。目の前でそれらを見ることが出来た幸せに感謝しました。

昨年11月中旬ネパールヒマラヤ撮影ツアーに参加しました。カトマンズ、ポカラ、ナガルコットなどの2000m以上の高台に登っても、遙か遠くにしか山々を見ることが出来ません。それはそれですばらしかったのですが、もっと近くから眺めたかったので、ヒマラヤマウンテンフライトをしました。神々の住むヒマラヤと言われるだけあって、初めは厳粛な気持ちで見ているばかりでした。エベレストが見えてあわててシャッターを押したほどでした。これも写真をしているおかげで体験できたことかなと思っています。

身の回りにも被写体となるものがたくさんあります。雑草の中に見え隠れしている小さな花も、ファインダーを通してみると立派に自分を主張しているのが良く分かります。そんな時「美しいね、撮らせてちょうだい」と声をかけて撮っています。

楽しいだけの写真から、悩みも感じはじめたこの頃ですが、「さあ、今日も楽しみましょう。」

山登り雑感

三橋 亮一 (26年入学)

「まだ山に登っているの?」「このごろどこの山に行った?」久し振りに会った友達などからよく聞かれる。

「学生時代からの山仲間と誘い合ってお互いに都合がよければ楽しんでいる」と答えることにしている。

最近の私たちは当然のことだが、皆若い頃と違い無理をしないことにしている。脈拍120以下で歩き、それを越えたら休む事にしている。

しかし、頂上を目前にして最後のふんばりの場面では、荒い呼吸で重い足を運ぶ様は、まさに苦行である。ただひたすら山頂を目指すのみである。

その後、開けた頂上に立った時の感激と達成感には素晴らしいの一語に尽きる。

一時は「3K」きつい、苦しい、汚いと言われた山登りであるが、最近は高齢者の登山がおおはやりである。

山岳部の現役の頃、よく先輩に言われたことを思い出す。山に登ることには種々の学問の裏付けが不可欠なのだ。気象、地理、地質、生物が挙げられ、その他民話、山麓の生活など多岐にわたることを念頭に入れておくようにとのことだった。

私も過去の山行で、その内のほんの一部分は身に付いたように思える。

このようなことが高齢者の登山を盛んにしている要因であるのかも知れない。

近年高齢者登山の諸条件が整ってきている。登山自動車道路、ロープウェイなどの開発。登山路、標識などの整備など容易に高所まで登ることができるようになってきた。

また、装備や食糧、登山用具も新素材の開発や軽量化がはかられるようになった。

このような良い環境のもと、今後とも安全で楽しい山歩きを続けていければと思っている。

脳の活性化

青木 敏浩 (27年入学)

“本卦がえり”と言って子供に生まれ変わるとい
う還暦と同じ意味の言葉があるが、最近の長寿社
会では60歳ぐらいでは、まだ鼻垂れ小僧である。
だが、それから10年も過ぎると脳の方も大分怪し
くなってきているようである。

そんなことから、東北大と仙台市の共同事業で
ある「学都共同プロジェクト」の脳ウエルネスプ
ロジェクトに参加した。そもそも昨年7月に鶴ヶ
谷地区での70歳以上の人を対象に「寝たきり予防
健診」が行われた際に、脳の健康増進を図るため
のプロジェクトへの参加の募集があった。早速応
募したところ、抽選に当たり10月から協力するこ
とになった。その内容は、音読や計算を生活習慣
の中に取り入れることで脳機能の低下を予防し、
より元気に生活できるのではないかという仮説の
基の実験である。私は、家庭で毎日15分ぐらい学
習するコースを選び送られてきた教材に取り組ん
だ。

教材の内容は、計算問題（四則と百ます計算や
エレベーター計算）と名文（古典・小説・韻文・
宮城の銘酒など）の音読となぞり書きである。そ
れぞれバラエティーに富んでおり、川島教授の
「毎日決められた分量を学習することに意義があ
る」という言に従って半年の長丁場を楽しく学習
することができた。週末に投函したプリントは、
次週に担当者の感想と花マルがついて戻ってくる。
これがまた一種の心理的なカウンセリングにもな
っていたのではないかとも思う。半年間の終了時
には、藤井市長から立派な修了証を頂いた。

この実験の結果は、個人的な評価は無かったが
「学習をやれば、脳は活性化することができる」
という証明になったようで万々歳である。現在も
有料とはなったが学習を継続している、今後は脳
の活性化もさることながら、身体の活性化をもと
考えウォーキングや登山を続けていく積もりであ
り、いささかの欲を持って行動したいと思ってい
る。

12期会 (35年入学)

35年度入学の同期会名は、卒業の年の同期会と
合わせて35・39（さんご・さんきゅう）会と言いま
す。現会長は佐々木 清さん（理科P）で、前
会長は西村 賢一さん（社会P）です。

今年は卒業40周年の年で、10月には記念の一泊
同期会を作並温泉で行う予定です。伊藤 文明さ
ん（音楽P）の演奏（ピアノ・バイオリン）に耳
を傾け、初の宿泊行事を有意義なものに……と考
えています。昨年は相澤 信さん（理科P）がイ
ェバエの研究で理学博士号を取得しましたので、
私たちの日常生活（体内時計）との関わりについ
て話を聞き、その後、懇親会（同期会）を開きま
した。年2回会報『珊瑚燦宮』を発行していま
すが、第11号の主な内容は今年の志津川町議選にト
ップ当選された佐藤 門哉さん（教育科学）と、
劇団で活躍されている遠藤 康さん（社会P）に
関する記事です。 (文責 泉 豊)

14期会 (37年入学)

昭和37年は、戦後復興期から経済成長期が始ま
ろうとしていた頃で、川内には米進駐軍の香りが
まだ残っているような感があった。60年安保の騒
ぎも過ぎ、学内は比較的静穏になってきていたと
思う。

入学者の顔ぶれを見ると、かなりの先輩と思わ
れる方も居たりで、それまでの学校という感覚か
ら別世界に入ったかと思った。それも1年もせず
して会話が出来るようになり、多々眼を開かせて
いただいた。現在の支部会員としておられる菅井
東北大副学長先生はじめ、様々なところで未だ活
躍中の方々が居られることに励まされ、感謝して
いる一方、最近惜しまれながら逝かれる方々が目
立つことに寂しさも感じているこの頃です。

(文責 菊田 泰丸)

仙台支部役員名簿

(平成15. 12. 1～平成17. 11. 30)

顧問	藤井 黎	24三浦 修一
"	25多田 滋	26佐々木一洋
"	28永野 昌一	31雪江 美久
支部長	37関口 隆	
副支部長	36阿部 琢也	36岡崎 忠
"	39軍司 啓	
参与	24岩淵昌次郎	24富塚 英雄
"	24志村 元一	29石森 幸子
"	31柘澤 怜	32佐々木亀三郎
"	33佐藤 健仁	
理事	24小野 春夫	24川井 善夫
"	24丸谷慶二郎	
"	25高橋 公正	25菊池 康雄
"	25静田 一	
"	26池田 和夫	26三橋 亮一
"	27岡崎 忠	27青木 敏浩
"	28小關 幸生	28古澤 良一
"	29青木 寛敏	29星 博
"	30小野 正義	30小畑 博之
"	31楨 要照	31今野 健
"	31菅原 教雄	
"	32久保田 明	32砂金 信男
"	33小高 幸子	33金岡 昭房
"	34菱沼安太郎	34一条 紀久
"	35泉 豊	35岡本 幸子
"	36正木 競	36川村 幸安
"	37菊田 泰丸	37小倉 英樹
"	38熊谷 洋	38櫻井 正幸
"	39五十嵐楯夫	39牛田 和夫
"	41安住 裕	50別府 成裕
"	52白澤 利広	57川上 芳夫
監事	25佐藤 寿郎	48宮腰 英一
大学関係理事	玩熊井 正之	52渡部 信一
理事事務局	35伊藤 昭	39大浪 榮一
会計	33熊谷 捷子	
"	37佐藤 勝美	37千葉 雅修

事務局だより

会員の皆様には、日ごろ多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。

下記のように委員会を構成し、それぞれ活動を展開しております。

会則検討委員会

委員長 31柘澤 怜 副委員長 31今野 健
委員 25静田 一 28古澤 良一
34一条 紀久 37菊田 泰丸

名簿作成委員会

委員長 30小野 正義 副委員長 31菅原 教雄
委員 25高橋 公正 29青木 寛敏
33金岡 昭房 35泉 豊

会報発行委員会

委員長 25菊池 康雄 副委員長 32佐々木亀三男
委員 26池田 和夫 27青木 敏浩
32久保田 明 34菱沼安太郎
39牛田 和夫

会計委員会

委員長 29石森 幸子 副委員長 36正木 競
委員 37千葉 雅修 39郡山 慶子

東北大学創立百周年記念事業推進実行委員会(仙台支部関係)

実行副委員長 37関口 隆

常任実行委員 25多田 滋

推進実行委員オピニオンリーダー

25多田 滋 25高橋 公正

27青木 敏浩 28永野 昌一

28小關 幸生 31柘澤 怜

37関口 隆

推進実行委員 28木村 力雄 30小金澤紀光

33佐藤 健仁 36正木 競

39松田 尚嗣 39大浪 榮一

訃報のお知らせ

当支部顧問、三浦修一様には、6月16日
ご逝去なされました。

東北大学教育学部同窓会仙台支部の創設と
第2代支部長として永年に亘りご尽力、ご指導
を賜りましたことに深謝し、謹んで哀悼の
意を表します。

事務局(連絡先)

〒982-0816 仙台市太白区山田本町20-10

伊藤 昭 TEL 244-1830

(連絡先)

吉成小学校 大浪 榮一 TEL 278-5190